

JA 全農ちば 営農情報集

2025 年
10 月



今月の情報

- I. 園芸野菜 病害虫防除情報
- II. 果樹（ナシ）病害虫防除情報
- III. 第50回JAグループ千葉農業機械大展示会
営農支援ブースの紹介

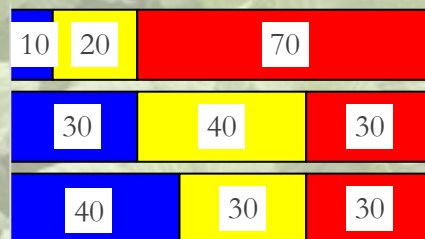
今月の気象（気象庁10/2発表 1か月予報より）

平年に比べ、気温の高い状態が続きます。【気温】
特に、期間の前半は気温がかなり高く
なる見込みです。

台風等急な天候の変化に注意し、病害
の発生を防ぐため、薬剤の予防散布を
心掛けましょう。

【降水量】

【日照時間】



■:低い ■:平年並み ■:高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

I. 園芸野菜 病虫害防除情報

J A全農ちば 営農支援課

1. はじめに

10月は気温が高く、日照は少なくなる予報です。そのため、害虫、病害ともに発生しやすい環境になります。特に、本年はチョウ目害虫の発生が非常に多いため、圃場を注意深く観察し、早期防除を行いましょう。

また、台風の発生・接近が予想されます。気象予報に留意して事前対策を心がけましょう。

2. キャベツ(菌核病、黒腐病)

(1) 菌核病

菌核病は、結球はじめの頃、地面に近い下葉の基部に水浸状病斑を出しながらおられます。病斑はやがて結球部に進展し、全体が柔らかくなります。発病部には写真のような白いかびを生じることがあります。

秋雨の時期に発病が増えるため、今月は重要な防除時期です。また、この時期の薬剤予防散布によって、今後の発生が比較的緩やかな形になります。薬剤散布の際は、葉裏(株元)付近にも薬液がかかるよう、丁寧に行いましょう。



菌核病の病斑

○キャベツ 菌核病 防除薬剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数 ※	使用時期	使用回数	備考
12	セイビアーフロアブル 20	1000	収穫前日まで	3回以内	予防
2	ロブラール水和剤	1000	収穫7日前まで	4回以内	予防・治療
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000	収穫3日前まで	3回以内	予防・治療
7	パレード 20フロアブル	2000	収穫前日まで	3回以内	予防・治療△

※登録のうち最大濃度を示しています(1000~2000倍登録→1000倍)

(2) 黒腐病・黒斑細菌病

黒腐病は葉縁部に葉脈を中心として外側に広がるV字型の黄色病斑を生じます。植物体内で越冬し、土中の細菌が雨滴による跳ね上がりで葉に付着するなどして種子伝染します。

黒斑細菌病は小斑点が広がり、褐色~黒褐色の病斑が生じます。土壌から風雨によって飛散し、水孔や害虫の食害、中耕等による傷口から侵入します。

春も発生しますが、特に秋に多発生します。菌核病同様、秋雨(台風)の時期に発病が増えるため、今月は重要な防除時期です。薬剤散布は、葉裏(株元)付近にも薬液がかかるよう、丁寧に行いましょう。

○キャベツ 黒腐病・黒斑細菌病 防除薬剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数 ※	使用時期	使用回数	備考
M1	Zボルドー	500	—	—	予防
31+24	カセット水和剤	1000	収穫7日前まで	3回以内	予防・治療
24+M1	カスミンボルドー	1000	収穫7日前まで	4回以内	予防・治療

※登録のうち最大濃度を示しています(1000~2000倍登録→1000倍)

< 薬剤以外の防除 >

圃場環境を整え、病原の伝染環を断つことが重要です。

- ◆伝染源となる被害株を圃場から速やかに取り除く。
- ◆健全種子や抵抗性品種を利用する。
- ◆感染源となる傷口を作る害虫を防除する。
- ◆圃場の排水や pH など土壌環境に注意する。

3. ネギ(さび病・べと病・黒斑病、シロイチモジヨトウ)

病害は多湿条件を好むため、降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ薬剤を使用しましょう。また、夜間の湿度が高い時期にも病害多発の恐れが高まります。天候に留意しながら防除を行いましょう。

(1) さび病

オレンジ色の隆起した斑点が生じます。一度発生してからでは防除が困難な病害のため、予防主体の防除を行い、病斑が見られたら直ちに治療剤の散布に切り替えましょう。



さび病の病斑

(2) ベと病

葉身が黄色くぼやけ、表面にはやがて灰暗色のカビが見られます。さらに進展すると、被害部から葉が折れてしまいます。多湿圃場では被害の急拡大に注意が必要です。



べと病の初期病斑

(3) 黒斑病

葉身に輪紋状の黒色病斑が生じ、やがて被害部から葉が折れてしまいます。多湿環境のほか、草勢が低下すると発生が助長されます。



黒斑病の病斑

○ネギ さび病：☒・べと病：☒・黒斑病：☒ 防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数 ※	使用時期	使用回数	備考
☒	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールドMZ	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防・治療
☒ ・ ☒	11	メジャーフロアブル	2000	収穫前日まで	3 回以内	予防・治療
		アミスター20フロアブル	2000	収穫 3 日前まで	4 回以内	予防・治療
☒ ・ ☒	M7	ベルコート水和剤	2000	収穫 30 日前まで	3 回以内	予防
	3	オンリーワンフロアブル	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防・治療
☒	2	ロブラール水和剤	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防・治療

※登録のうち最大濃度を示しています(1000~2000 倍登録→1000 倍)

(4) シロイチモジヨトウ

葉裏などに卵を卵塊で産みつけ、ふ化した幼虫は集団で群生して食害をします。以下の薬剤は特に効果が高いですが、浸透移行性がないため薬剤がしっかりかかるような散布を心がけましょう。また、同じ系統の薬剤を連続で散布しないようにしましょう。



シロイチモジヨトウ幼虫



シロイチモジヨトウ成虫



食害痕

○ネギ シロイチモジヨトウ 防除薬剤

IRAC	薬剤名	希釈倍数※	使用時期	使用回数
5	ディアナSC	2500 倍	収穫前日	2 回以内
6	アニキ乳剤	1000 倍	収穫 3 日前	3 回以内
30	グレーシア乳剤	2000 倍	収穫 7 日前	2 回以内
	ブロフレアSC	2000 倍	収穫前日	3 回以内
UN	プレオフロアブル	1000 倍	収穫 3 日前	4 回以内

※登録のうち最大濃度を示しています (1000～2000 倍登録→1000 倍)

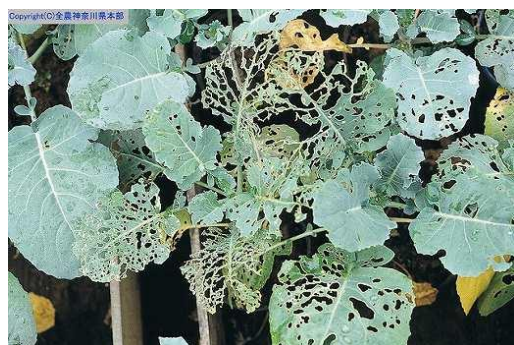
4. ダイコン(ヨトウムシ類)

ヨトウムシやハスモンヨトウは卵を1か所に200～300個の卵塊で産卵します。孵化した幼虫は、成長するにつれて食害量が増えるため、被害が急速に大きくなります。また、露地作物では生長点を食害されると欠株になってしまうため、特に早期防除が重要な害虫です。

○ダイコン ヨトウムシ 防除薬剤

IRAC	薬剤名	希釈倍数※	使用時期	使用回数
4E	フィールドマストフロアブル	4000 倍	収穫 3 日前	2 回以内
5	ディアナSC	2500 倍	収穫前日	2 回以内
2 2 B	アクセルフロアブル	1000 倍	収穫 7 日前	2 回以内
2 8	ベネビアOD	4000 倍	収穫前日	3 回以内
3 0	ブロフレアSC	2000 倍	収穫前日	3 回以内
UN	プレオフロアブル	1000 倍	収穫 14 日前	2 回以内

※登録のうち最大濃度を示しています (1000～2000 倍登録→1000 倍)



ダイコン ヨトウムシ 被害



ダイコン ヨトウムシ幼虫

II. 果樹(ナシ)病害虫防除情報

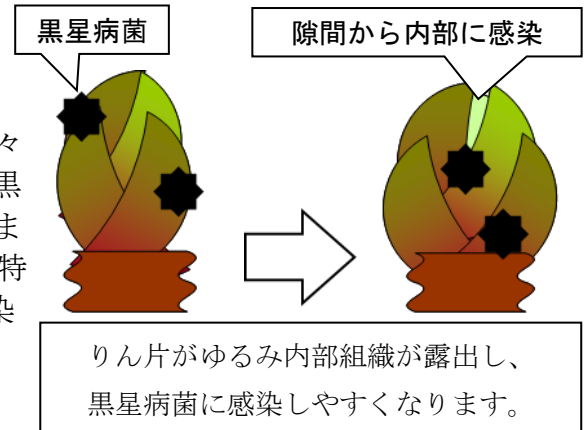
J A全農ちば 営農支援課

1. はじめに

黒星病は年間を通した防除が非常に重要な病害です。また、今年度は一部地域で炭そ病の多発が確認されました。炭そ病、黒星病は落葉処理を適切に行わなかった場合、次年度多発する恐れがありますので、特に今年度上記2つの病気が多発した園では以下の秋防除を徹底しましょう。

2. 秋防除の目的

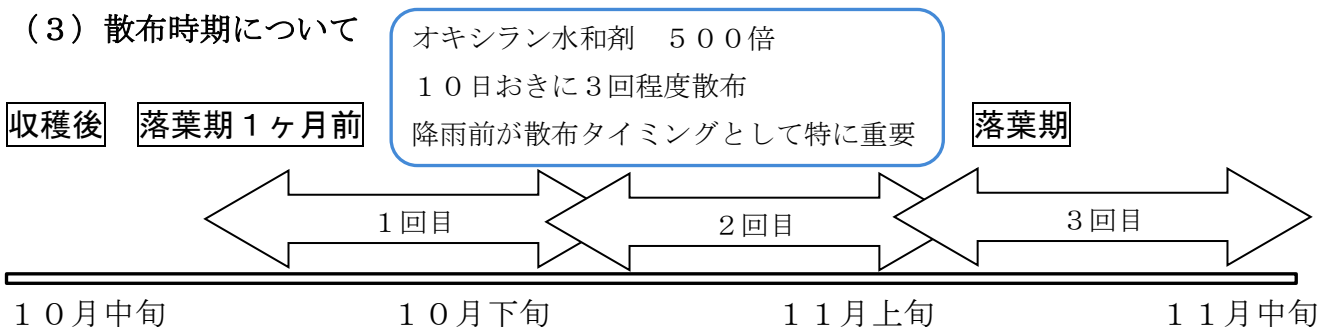
花芽は9月～12月上旬にかけて、枝の上方から徐々にりん片がゆるみます。降雨があると、葉に残った黒星病菌が雨とともに枝を伝い、ゆるんだ芽に侵入します。ゆるみがピークとなる10月中旬～11月中旬は特に感染しやすい時期となるため、薬剤を散布して感染を防ぎます。



3. 秋防除のポイント

- (1) 落葉期1か月前～落葉期（10月中旬～11月中旬）に10日間隔で2～3回、オキシラン水和剤500倍（収穫3日前／9回以内）を散布して、りん片への黒星病菌の感染を防ぎましょう。また、特に降雨時に感染するため、降雨前に必要に応じて予防散布しましょう。
※落葉期の目安は全体の8割が落ちるまでです。
- (2) 散布量は300L/10aを目安に、徒長枝に薬液が十分かかるようにしましょう。
※展着剤アビオンE（2000倍）を加用すると耐雨性を高める効果があります。

(3) 散布時期について



4. 落葉処理 落葉は黒星病の伝染源です！ 園周辺の落葉も処理しましょう！

落葉を集めて焼却するか、土中に埋めます（孢子の飛散を防止）。ただし、炭そ病は土中に埋めても防除にはなりませんので、炭そ病発生園では確実に園外へ持ち出す必要があります。園の外周とネット下部にも落葉が溜まっています。熊手等で集めて処分しましょう。



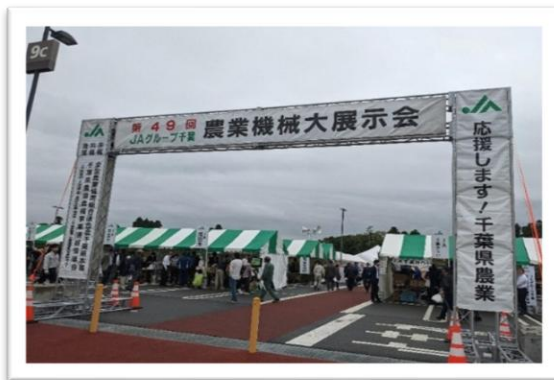
落葉処理の様子

Ⅲ. 第50回JAグループ千葉農業機械大展示会 営農支援ブースの紹介

JA全農ちば 営農支援課

10月24日（金）～10月25日（土）に酒々井プレミアムアウトレット（P9駐車場）にて開催される農業機械大展示会にて、営農支援ブースを開設します。

ご来場の際は、ぜひお立ち寄りください。



（第49回農業機械大展示会の様子）

主な展示内容について概要を紹介します。

1. スマート農業技術を活用した営農支援ツールについて

営農管理システム「Z-GIS」

栽培管理支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」の紹介

☆ブースではデモ機にて実際の操作を体感できます。

2. 水稲省力・低コスト技術について

水稲鉄コーティング湛水直播栽培や「リゾケア」（水稲直播コーティング技術）の紹介

3. 水稲育苗ハウスや遊休ハウスの有効活用について

「ういずOne」（養液栽培システム）を使用したミニトマト「アンジェレ」の栽培実証圃の取組みについて紹介

4. 優良種苗生産・供給の取組みについて

「さつまいも」「いちご」品種特性などの紹介

5. 土壌分析の取組みについて

土壌分析・結果をもとにした適正施肥のススメ

6. 食の安心・安全について

安全な農産物生産の取組みについて紹介

7. IPMについて

バンカーシートなど天敵について紹介

8. 「食育」について

「収穫体験」を通じた消費者との交流紹介や「米づくり」に関する学びコーナーなど

